

強運を引き寄せせる家はどこが違う？

R 周りに流されて 塾に通わせない

食費を切り詰めながら子供は塾に通わせる親の話を聞きますが、食費というのほそれほど家計の圧迫要因ではありません。むしろ見直すべきは「聖域」とされがちな教育費ではないかということをあえて申し上げたい。

教育費は極力削るべきだというのではありません。支払う教育費の背景にきちんとした冷静な判断があるかどうかを再確認すべきだと思うんです。「周りがみんな塾に行っているから」とか「私立の中高一貫校に入れなければ、これからの時代は子供が幸せになれない」といった、マスコミや口コミによる、親の不安を煽るような不確実な情報に踊らされているのは、やれ塾だ、お受験だ、お稽古だとなつて、気がついてみると子供のスケジュールはびっしりで、親も送り迎えで大忙し、しかも教育費はどんどんかさむという結果になってしまっています。

みんなが塾に行くからうちの子も、周りがお受験をするからうちの子も、という姿勢は、投資でいえば「株価が上がっているから、自分も便乗して……」という発想と同じ。すでにブームとなった株を高値で買って、多くの場合、損をすることになります。周囲に合わせるのではなく、自分は自分だと、あえて人とは逆を行ってみるというのも時にはいいかもしれません。

例えば、ゴルフデンウィークに家族で出かけるときにも、一日ずらさずだけで、道路や宿はすいているし、料金もお得だったり、ずいぶんいい思いをすることができまますよね。教育でも、たとえば公立に通わせて、多様な子供たちと接することも子供の将来にはプラスになるはずですし、名門校を目指すより、スポーツや音楽といった、世界の「共通言語」を身につけさせれば、外国人となかよくなる機会が増えるという点もあります。

「人と同じで本当にいいのかな？」という意識を常に持つ。私の周囲で成功者として人生を歩んでいる人の共通点のひとつです。



1961年神奈川県生まれ。日本資本主義の父と呼ばれる渡沢栄一の5代目の子孫。外資系金融機関を経て投資コンサルティング会社 シブサワ・アンド・カンパニーを設立。著書に「巨人・渡沢栄一の「富を築く100の教え」」など。

渡沢 健

R 家族の対話が多い



家にお金が残るといのは、言い換えればその家の「価値」が高まるというのですが、価値というのは必ずしもハードな資産だけではない。家族の愛情とか絆とかいうものも大きな価値だと思っんです。

たとえば「主人が自分自身の市場価値を高め、転職や独立をしようとしたとき、大きな力になるのが家族のサポートです。

現在のような、変化の激しい時代には、一つの会社に長くいることよりも、環境の変化に合わせて、転職や独立など多くの選択肢を柔軟に持てること、より安定した収入へとつながる場合も多いでしょう。ところが、「仕事のこ

とは俺が決める。妻や子供には関係ない」というのでは、家族の理解は得られないと思います。

私自身、四〇歳のときに独立起業したんですが、そういうリスクの大きな選択は家族の反対に遭う場合が多い。しかも、子供が生まれたばかりでしたからね。

でも、うちの妻は「子供が小学生のうちになんとかなればいいんじゃない？」とドーンと構えていてくれました。結局、そのおかげで起業ができました。結果的にはいろいろな出会いを通して「価値」が高まったと思っています。

普段から仕事の話も含めて、家族で

R 家に客が来るのが好き

私の曾おじいさんである洪沢栄一という人は、強運の持ち主だったと思いますが、「運は人が運んでくれるもの」と考えていたんじゃないかと思えます。

洪沢栄一はとにかく寸暇を惜しんで人と会う人でした。陳情の商売人から国を憂う血気盛んな若者まで、訪れてきた人にはできる限り時間を割いて会っていたようです。そして、他人のために骨を折ることをずいぶんしてきた人物です。

明治政府の高官として、また黎明期の実業人として数々の大事業をしているのですが、おそらく、そうやっていろいろな人と接点を持ったことが、新しい発想につながったのではないのでしょうか。

人との出会いが思いもかけないチャンスにつながるということはよくあります。「時間がない」「この人間に会ってもメリットはない」と、目先の利害に惑わされて人との接点を狭めてしまうと、その人が運んでくれたかもしれない「運」をも門前払いすることにもなりかねません。人生の成功と不成功を分けるのはそんな部分なのかもしれません。

私は子供の頃、父の仕事の都合でアメリカに住んでいましたが、家にはいつも多くのお客さんがいました。親の現地での知人や、日本から出張でこ

れた方などもよく招いていました。いまから考えると支度や世話をしていた母は大変だったろうなと思いますが、父が大勢の人から親しくされているのだなあと、幼な心に印象づけられました。

洪沢栄一の著書『論語講義』を読んだときに印象に残った言葉があるんです。「子曰く、これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」という孔子の訓言です。すごくいいなと思いましたが、

物事を知っただけでは何も始まりません。それを好きになれば行動につながる。でも、好きだけでは壁にぶつかるとあきらめてしまうかもしれない。

もう一歩進んで、心から楽しいと思えば、壁にぶつかっても失敗しても、またトライできる。それに、楽しい思いは伝染します。親が楽しんでいけば、子供も寄ってくる。生活や人生を心から楽しんでいる人の周りには、自然と人が集まってくる。

確かに私の周囲で成功している人に共通するのが、「ものすごく人生を楽しんでいる」「毎日が楽しくてしょうがない」というオーラを出していることです。

人が訪ねていきたくなくなるくらい、暮らしを楽しんでいるなら、たとえ困難にあたって、周りにも助けられ、きつと前に進んでいくはずですよ。

What are the secrets of lifelong wealth and wellness?



いろいろなことを話し合っ、お互いの考え方や感じ方を理解しておく。それがいざというときには家計にも直結する。家族の市場価値、なんだなというのを痛感しました。将来のために自分の家族の中に価値を蓄えていこうという発想は大切だと思います。

家族で対話が多いこと、父親が仕事への意欲的な姿勢を見せることは、自

然と子供が社会へ関心を持つきっかけともなります。

現在、わが家の基本方針は「平日、週二回は必ず家で家族揃って夕食をする」。それ以上になることもあれば、なかなかその時間がとれないこともあるのですが、意識的に家族との時間をつくるということが、家族の一体感を高めるのだと思います。